

第七十六回「本郷ふじやま公園古民家歴史部会」「古都鎌倉」歴史探訪

「I」4月4日（木）大船観音・玉縄首塚・玉縄城跡 ・ふあん坂

（集合；JR 東海道線「大船駅」南改札口 9 時 50 厳守）

① 行程；大船駅→大船観音寺→玉縄首塚→大船軒工場→北条秀司家→龍宝寺→玉縄城跡の碑・諏訪壇→ふあん坂→久成寺→バス移動「久成寺前」→大船駅。

② 食事場所；大船駅前商店街、魚屋さんの経営する昔懐かしい食堂「観音食堂」・

T E L ； 0467－45－1848。

1・大船観音寺（旧大船観音協会・曹洞宗・昭和 56 年 11 月 30 日大船観音寺と改称・本尊開帳 5 月 18 日・300 円）

観音思想の普及で、世相の浄化をしようと、元首相清浦奎吾や金子堅太郎らが建立計画し、彫刻家山朝雲の指導のもとに 1929（昭和 4）造仏に着手したが、1934 原形が大体出来た処で、相次ぐ発起人の死去や資金難、戦争の勃発等で工事中断、1954 年、可睡斎（静岡・曹洞宗）高階瓏仙官長代表、政治家安藤正純や五島慶太らの協力を得て大船観音協会設立、寄付浄財募集、1957 年、画家和田三造・建築家板倉準三・東京芸大教授吉田五十八（イリハチ）らを中心に、彫刻家山本豊市の設計により、修仏工事、1960 年（昭和 35）年 4 月大観音像完成（高さ約 25m・幅約 19m・重さ 1915t 胸像）。頭上に化仏（ケブツ・阿弥陀如来像）を載せ、胸に瓔珞（メイラク）・白毫（ヒャクゴウ・額の中央のホクロ様・光明の世界照らされている。胎内参観（1／30 原形観音像、平安時代観音像本尊安置）・境内には慈光堂（秘仏観音像・金箔木像非公開）・照心閣（本堂）・原爆慰霊碑・平和記念塔・子育て地藏尊・厄除け地藏尊・休憩所・四季折々の花美しい。

「大船観音を見て裏山づたいに黙仙寺へ 十葉（トクダミ）の群れ咲くあたり山路よし 山道だん々細くなり涼し たゞ大観音に詣るべく」星野立子・大船駅句抄、永井龍男「お召車を待つ打水や五月富士・鯛めしに茶も買添えし青田風」。

2・大船軒工場；明治 32 年サトウヰッチ駅弁販売・明治 33 年ハム製造部門鎌倉ハム・豊岡商会設立・鯔押し寿。

3・玉縄首塚

1526 年（大永 6）11 月 12 日、房州、武将里見氏の鎌倉攻めの際に玉縄城主北条氏時（早雲の孫）に従い、応戦戦死した、渡内福原氏や大船甘糟氏一族 35 名を供養した塚。後世に六地藏が祀られた。

4・北条秀司家（ホリシヨウヂ）；劇作家・新国劇・日本演劇協会会長・大阪生、関西

大卒、岡本綺堂（キトリ）に師事・作「王将」「井伊大老」など（1902～96年）。

5・龍宝寺（曹洞宗・陽谷山・旧石井家、資料館100円無人）

玉縄城2代城主北条綱成が建てた瑞光院がこの寺の始まりで。開山は泰絮（タジヨ）宗栄と伝える。1575年（天正3）に4代城主氏勝が3代城主氏繁を弔うため現在の地に移し、氏繁の戒名により寺名を「龍宝寺」として建立。創建以来玉縄城主の菩提寺で、綱成・氏繁・氏勝の位牌を伝える。山門右手に玉縄城諏訪壇があった辺りを望む。豊臣秀吉小田原攻めの折北条氏勝は玉縄城に籠城、死を覚悟していたが徳川家康の部下の計らいで開城している。本尊は釈迦三尊・城主歴代、源実朝の位牌・堂内には玉縄城模型・裏山は城主歴代の墓があったが、平成24年北条500年祭記念祭時、本堂向かって左側に移築。又、境内には旧石井家住宅（国重文）がある。石井家は、後北条時代の寺侍の出で、名主級農家で、建築年代は17世紀末頃（鎌倉市関谷にあった）。新井白石（アライハクセキ）の墓石（やぐら内）江戸幕府政治家で、この辺りの植木や城廻を所領していた（家禄二百石）、碑文は1725年（享保10）室鳩巢（ムロキウリウ）の撰文と言うが判読不明。

6・諏訪神社（玉縄城守護神・祭神建御名方神・例祭8月27日・神徳勝運、家内安全、農業神）

永正9年（1512）北条早雲が玉縄城築城の際勧請、守護神として祀ったのが始まりと言う。元和5年（ゲンナ・1619）玉縄城廃された後、村人により現在地に移された。その時、関谷の御霊社と合祀された。鳥居に掲げられた「諏訪・御霊両大神」扁額が歴史を語る。

7・七曲り

マンション建設前の1/200地形模型で竖堀の跡を見られる玉縄城側に登りつめた両側は土塁となり、土塁の内側の平場で下から攻め上がる敵を攻撃、防御出来る様になった。

8・玉縄城址の碑・諏訪壇（行程内・本丸土塁、最も高い所の見張り台）

戦国時代の典型的山城で「当国無双の名城」であったが、住宅造成等により、城の面影の大半は失われている。天然の要害の地である丘陵に、空堀や土塁、土塁などで囲まれた平地（曲輪）などの防衛施設を加えた山城。本丸は清泉女学校庭の位置・当時を忍ぶ地形は、七曲り・ふあん坂・諏訪壇（海拔80m幅約15m長さ約80m程と言う）。

下記に築城と戦歴

- ① 1512 年（永正 9）北条早雲（伊勢新九郎）が三浦義同（ヨシアツ・道寸）攻略の為築城。
- ② 1526 年（大永 6）房州、里見氏鎌倉に乱入、初代城主氏時が戸部川（現柏尾川）のほとりで防戦。
- ③ 1561 年（永禄 4）上杉景虎（謙信）小田原攻めるも堅固の為、鶴ヶ岡八幡宮へ参拝し管領になった報告しようと鎌倉へ引き返した。この時、2 代城主綱成の玉縄城を攻略企てるが不可、鎌倉に詣出たと言う。
- ④ 1569 年（永禄 12）甲州勢の小田原攻めの時、玉縄城北方を素通りし、藤沢の大谷氏の砦を落とす。
- ⑤ 1590 年（天正 18）豊臣秀吉の小田原攻めの時、4 代城主氏勝は山中城へ援軍に出掛けたが、山中城は落城したため恥辱を感じ、玉縄城に籠城、徳川家康は氏勝の伯父に当たる大応寺（現龍宝寺）の住職良達を通して降伏を説得し、開城となった。1619 年（元和 5）廃城。

9・ふあん坂

坂の両側に、かつては、坂道を見下ろす平場があり、道を攻防できるようになっていた。

10・久成寺（日蓮宗・光園山・本尊三宝祖師・4 世日顥に於て法華經三千部読誦・寺紋丸に葵紋・昭和 47 年頃改築）

永正 17 年（1520）日蓮宗に信仰していた梅田尾張守秀長（北条家臣と言う）が、自宅地を寄進建立と伝う。家康が鷹狩の折り立ち寄り、日顥が庭の柚子献上したところ、家康から行厨（コウチュウ）とか割子（ワリゴ）とも言う葵紋付弁当箱を賜ったと言う。

11・貞宗寺（玉縄山珠光院・浄土宗・本堂大棟三葉葵紋・本尊阿弥陀三尊）

1609 年（慶長 14）没、貞宗尼「西郷弾正佐衛忠勝の娘、戸塚五郎忠春に嫁ぎ宝台院殿と言われた「お愛の局」（1578 年天正 6、徳川家康に召され、翌年 2 代将軍秀忠を生んだ）を生んだ。貞宗尼の廟、木像・お愛の局寄進と言われる三葉葵紋付き仏具・貞宗尼墓、木造御霊堂に宝篋印塔がある。

12・県立フラワーセンター大船植物園

神奈川県の見賞植物の生産を振興目的に 1962 年（昭和 37）県農場試験場跡に開設、大正時代から改

良育成されてきたシャクヤク・ハナショウブを中心に国の内外から収集し、優れた見賞植物約 5700 種が栽培、展示、四季にわたって楽しめる。

以上

歴史探訪古都鎌倉
第1回4月4日(木)
大船観音〜久成寺
散策地図
縮尺約 1/10000

